

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 A.Y

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて令和6年2月29日から3月26日にかけてタイ王国にあるシーナカリンウィロート大学へ短期交換留学しましたので、ご報告させていただきます。滞在期間中は、寮生活をしながら主に大学にて活動しました。

2. 学校生活

2-1. 学校

シーナカリンウィロート大学には、Bangkok に所在するキャンパスと Nakhon Nayok に所在するキャンパスの二つがあります。

私達は、薬学部がある Nakhon Nayok の Ongkarak 分校を訪問しました。大学内はとても広く、他学部や大学附属病院の他、レストランやカフェ、マッサージ店、美容院までありました。また毎日のように大学内でマーケットが開かれていて、多くの人で賑わっていました。食べ物だけでなく服や雑貨なども売られており、日によって異なる屋台を見られるので、歩いているだけでワクワクしました。スポーツ施設も充実しており、私達も生徒達が誘ってくれたバドミントンを放課後に楽しみました。

週末には、Bangkok に所在するキャンパスを見学しました。Ongkarak 分校よりも敷地面積は小さかったものの、大学内にホテルがあることには驚きました。



Bangkok のキャンパス



薬学部



マーケット

2-2. 授業や実習

平日は、生徒達の授業や実習に参加したり、院生の方とラボでエマルジョンの実験やコスメ作りをしたりして過ごしました。具体的には、薬局管理学の授業と製剤学実習、製薬技術実習、生薬学実習に参加させていただきました。薬局管理学の授業内容は、薬局業界の分析についてでした。これまで薬学を経済学的な面から学習したことが無かったので、大変興味深かったです。また授業後半のグループワークを通して、タイの医療保険制度の分類や病院の種類、薬局、医薬品について教わり、日本との薬事情の違いを学ぶことができました。製剤学実習では、湿式造粒法を用いるビタミンC錠の製造を、製薬技術実習では、エキス剤・チンキ剤・流エキス剤を製しました。生薬学実習では、強心配糖体成分の確認試験を行いました。様々な学年の授業や実習に参加させていただいたのですが、いずれにおいても、先生や生徒達が英語で内容や手順を説明してくださったおかげで、私も積極的に参加することができました。

私達からお願いして、タイの伝統薬について学ぶ機会を設けてもらいました。薬学部内にあるハーブミュージアムの見学では、先生が一つ一つの生薬の説明をして下さいました。タイの医師は生薬の種類や数を変えて混合して薬を処方するため、一つの薬に対しても複数のレシピが存在していました。タイハーブは元々、軽度な身体の不調時に治療する目的で一般家庭でも使われていたそうです。「ヤードム」と呼ばれる伝統的なタイハーブ吸入剤は、現在もタイの人達にとって必需品だそうで、実際に使用しているところを非常によく見かけました。製品によって使用法が異なり、例えば、右下の写真上部に示す直接香りを嗅ぐタイプや写真下部に示す鼻に入れて使うタイプがあります。眠気覚ましや頭痛対策の他、乗り物酔いなどにも効果的だそうです。



製剤学実習



ハーブミュージアム



ヤードム

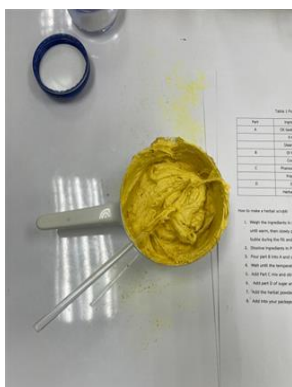
2-3. ラボ

ラボでの体験の中で、私は、ハーブボディスクラブ・アップルサイダービネガーグリセリン石鹸・リップスティック作りについて報告します。

ハーブボディスクラブ作りでは、使用するタイのハーブパウダーを変え、3種類の異なるスクラブを作りました。例えば、左下の写真に示すスクラブはウコンを使用したもので、肌の角質を除去する効果に加え、シミやくすみの改善が期待できます。

石鹸には、皮膚透過性を促進する目的でアップルサイダービネガーを、また保湿の目的でグリセリンを加えました。この大学は、授業の一環としてこのような実習を取り入れているようで、ケーキ型の石鹸を作った時の動画を私達に見せてくれた生徒達もいました。

リップスティック作りでは、用いる材料の配分によってリップスティックの質を変えることができることを知り、驚きました。



ハーブボディスクラブ アップルサイダービネガーグリセリン石鹸 リップスティック

2-4. 学外施設訪問

平日の午前中、地域健康増進病院に6回行き、在宅訪問を2件しました。

地域健康増進病院に医師は常駐しておらず、月に1回程、公立病院から医師と薬剤師が派遣されてきます。普段は看護師が日常生活の怪我の治療を行っていますが、その日は主に糖尿病・脂質異常症・高血圧症の患者さんが来院することになっており、診療開始時間の約2時間前から列を作って待っていました。私達は毎回、調剤・監査業務を体験しました。はじめは英語表記のパッケージに戸惑っていましたが、同じ薬が何度も処方されていたこともあり、回を重ねるごとに慣れていきました。また医療保険制度の一つである国民医療保障制度に加入していることにより、患者さんの医療費や薬代は無料とのことでした。

在宅医療では、統合失調症を患う患者さんと、高血圧症や脂質異常症などの生活習慣病を患う患者さんのお宅に伺いました。血圧と血糖値の測定やお薬カレンダーの作成を手伝いました。薬剤師さんが患者さんと積極的にコミュニケーションを取っていた姿が、特に印象的でした。



院内



調剤・監査体験



お薬カレンダー

3. 寮での生活

私達は、Ongkarak 分校内にある寮に滞在しました。薬学部からは少し離れており、大学内を走行している無料バスに乗って通っていました。寮内にはいくつかのお店が入った食堂があり、地域の人も利用している様子でした。バスルームは共用でしたが、10人部屋を2人で使わせていただいたこともあり、特に不便は感じませんでした。

この大学は、自宅通学よりも寮で生活している生徒数の方が多く、大学内や大学の周りには様々なタイプの寮が立ち並んでいました。



無料バス



寮内の食堂



10人部屋の寮

4. 観光

先生方や生徒達が、毎週末、観光に連れて行ってくれました。私は、Bangkok での観光について報告します。私達が訪問した Ongkarak 分校から Bangkok 中心部までの所要時間は、公共交通機関を用いて約3時間でした。滞在期間中、Bangkok へは計5日間行きました。

初めて Bangkok に行った日は、先生方と Wat Paknam Phasicharoen、ショッピングセンター Tha Maharaj、Wat Arun を訪れました。タイの三大寺院の一つである Wat Arun では民族衣装を着て、美しい寺院を鑑賞することができました。

次の週末は、Benchakiti Forest Park、他キャンパスの見学、China Town、Chatuchak Market など様々な場所を訪れました。Chatuchak Market は、週末のみ開催されている大型の市場であり、ありとあらゆる商品が売られていました。また南隣の県 Samut Prakan の人工島 Bang krachao でサイクリングをしました。島内には自然に囲まれたカフェや水上マーケットがあり、タイのローカルな雰囲気を味わうことができました。

滞在期間最後の日曜日は、生徒達と大型複合商業施設 ICONSIAM を訪れました。期間限定で開催されていたレオナルド・ダ・ヴィンチの没入型デジタルアート展に招待してくれました。施設内のフードフロアにはステージが設置されており、食事をしながら、タイ音楽の生演奏やムエタイの観戦を楽しめました。



Wat Arun



サイクリング



ICONSIAM のフードフロア

5. 最後に

この留学を終えて、渡航前の目標であった国内外での薬事事情の違いを身をもって学ぶということを達成できたと感じています。また現地での生活を通して多くの人や新しい物事に出会ったことで、多様な価値観と異文化に触れ、自分自身を成長させることができました。

留学中に得た気づきは大きく二つあります。一つは、グローバル化する現代社会で英語を話せるに越したことはないということです。自分の意思を伝えることなどは可能であるけれども、英語を話せることによって、自然と会話が膨らむことを痛感し、英会話力をもっと向上させたいと強く思いました。もう一つは、自国についての知識を深めておくことの大切さです。より多くの学びを得るために、これは他国の新しい知識を得ることと同様に重要であると実感しました。

異国の地でこれほど充実した日々を送ることができていたのは、今回の留学において関わって下さった全ての皆様のおかげです。このような貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝し、更に次のステップへ繋げていきたいと思えます。本当にありがとうございました。